

質問事項		記述式回答
<p><b>来年秋を見据えて、現在の景気の基調</b></p>		
1	<p>9月16日の経済財政諮問会議において、2015年秋を見据えて、現在の景気の基調を見る際、以下の5項目について今後注視すべきとされました。これらを参考に、現在の景気の基調や考慮すべきリスクをどうご覧になっているか、また、とるべき対応があれば、合わせて300字以内でご記入ください。</p> <p>① 消費の安定的増加、それを支える雇用者数・賃金の伸び(正規比率の上昇を含め)や消費マインド                  ② 企業収益の動向、民間設備投資の強さ(設備投資計画の動向も含む)                  ③ 輸出入の動向、交易条件の動向                  ④ 物価動向(一時的要因を除いた実勢と期待物価)                  ⑤ マーケット(株価、為替、金利等)の動向</p>	<p>個人消費は所得・雇用環境の改善を背景にして比較的安定した動きを見せているが、鉱工業生産や在庫水準の動きを見る限り、景気拡大のモメンタムはかなり弱まっていると判断してよい。四半期ベースで見れば7-9月期はプラス成長に転じるだろうが、消費税増税後の景気回復の足取りは予想を下回る。アベノミクス「第1の矢」は円安に(その経路はどうであれ)成功したが、生産拠点がすでにかなり海外に移転しているので輸出拡大には結びつかず、「第2の矢」も人手不足など供給面のボトルネックに直面し、景気刺激効果に限界が見えてきた。生産能力の向上を目指す「第3の矢」の重要性がますます高まっている。</p>
<p><b>地方創生・地域活性化</b></p>		
2	<p>地方創生・地域活性化に向けて、重点的に取り組むべき課題及び対応策につき、ご自身(自社)の知見・経験も踏まえてお考えを300字以内でご記入下さい。その際、地方が抱える課題の背景についても、併せてご記入下さい。</p>	<p>ぜひ議論していただきたいのは、「地域包括ケアシステム」をどうするかという点。政府はこれまで、介護については施設介護のウェイト拡大を抑制し、医療と一体化する形で地域の役割強化を求めてきた。その方針の是非は別にしても、「地域包括ケアシステム」を確立・維持するためには、当該地域がある程度の人口規模や経済力をもっている必要がある。また、あまりに広域のケアは非効率であり、そもそも維持できない。長期的には、地方の中核都市に医療・介護サービスを集中させ、高齢層の移動を促すような地域計画の策定も必要になるのでは。医療・介護を地域の産業基盤にするためにも、それは有益。</p>
<p><b>その他</b></p>		
3	<p>10月下旬の為替相場は107円台付近で推移しています。最近の為替相場の動向やその景気への影響について、ご見解があれば300字以内でご記入ください。</p>	<p>アベノミクスが円安につながったという点はおそらく正しいだろうが、ここまで円安になったのに輸出数量がほとんど好転していないことは、日本企業の生産拠点の海外進出がすでに大幅に進み、円安に輸出促進効果がもはやないことを物語る(逆に言えば、これまでの円高は輸出抑制要因ではなかったことになる)。さらに、日本の輸出は円安にも拘わらず世界の需要拡大のペースに追い付いておらず、競争力低下が如実になっている。円安はむしろ、輸入物価の上昇を経由して国内経済にマイナスの影響を及ぼす要因と考えるべきかもしれない、ネットの効果に関する内閣府の詳細な検証が必要。</p>